

芸能実演家・スタッフの活動と生活実態調査について

1. 「実態調査」とは

① 始まり 1974年から開始、5年ごとに実施

芸能・芸能人：華やかさ／蔑視された俗っぽさ → [興味本位・誤解されやすい]

なぜか？

- ・ 芸能実演家の実態がよく理解されていなかった
- ・ 実演家自身も狭い範囲でしか理解できていない

どうするか？

- ・ その実態・意識を実演家自身がまず知る
- ・ あるがままの姿・そこにある問題点を社会に伝達する
- ・ これは芸能実演家・芸団協としての責任である

② 意味と意義

- ・ 芸能人自身が現状を見直し、将来を展望する(倉林誠一郎)
- ・ 5年に1度は数字で把握できる芸能史が必要(久松保夫)
- ・ 加盟団体がこの結果を活かして改善活動を行う(久松保夫)

・ 実演家に関する唯一の総合的大規模調査 → [知る・知ってもらう]

・ 生の声を政策提言に → [文化芸術振興基本法の制定の際、国会での審議で引用される]

地方公共団体が芸術振興策の策定時に参照

芸術系大学で学生に将来のキャリアを考えさせる際の参考文献として活用される

③ 発送数・返送数

第6回 1999年	発送数6,000通／返送数1,596通…………… 回答率26.6%
第7回 2004年	実演家6,162通／返送数1,536通…………… 回答率24.9% スタッフ1,000通／返送数299通…………… 回収率29.9% この時から芸団協会員外の映像関係職能団体のスタッフにも配布、発送を開始 実演家とスタッフは共通設問もあるが質問票を分けるようにした。 *別冊としてアニメーター調査も実施
第8回 2009年	実演家5,860通 有効回収数 1,353通……………23.1% スタッフ1,320通 有効回収数 289通……………21.9%
第9回 2014年	実演家6,941通 有効回収数 1,603通……………23.1% スタッフ1,440通 有効回収数 329通……………22.8% *アニメーション制作者 実態調査を日本アニメーター・演出協会の協力で実施

参考「これまでの実態調査のトピックスと2004年、2009年版アンケート設問の構成」

■ 10年周期で方向性・トピックスを設定

質問の構成 = 基本部分(経年変化) + 方向性・トピックス

	年次	方向性・トピックス	手法
第1期	1974/75/80/85	芸能人の生活と意識	留置き式
第2期	1990/95/2000	芸能実演家の活動と生活実態 芸術支援・地域・不況の影響	郵送式 - 対象拡大
第3期	2004/09/14	芸能実演家の専門家としての意識	郵送式

■ 第9回(2014)実態調査質問項目の構成

			芸能実演家用	スタッフ用
Pert ① 個別設問	活動実態についての基本項目	A. 仕事との関わり 問1~5	<ul style="list-style-type: none"> ・たずさわる仕事の内容・分野 ・仕事をするようになった動機 ・芸歴・活動歴 ・技能を身につけた方法 	<ul style="list-style-type: none"> ・たずさわる職種・活動分野 ・教える仕事の間 ・報酬を得るようになってからの年数 ・技能を身につけた方法
		B. 仕事について 問1~12	<ul style="list-style-type: none"> ・所属集団、流派、組織 ・活動日数とここ数年の増減 ・芸能以外の仕事 ・教授業について ・収入 ・仕事の内容 ・報酬の形式 ・契約と権利 	<ul style="list-style-type: none"> ・たずさわった仕事の分野 ・仕事の機会の増減 ・収入 ・雇用形態、契約形態 ・仕事の内容 ・深夜作業
		C. 仕事の 環境・条件 問1~5	<ul style="list-style-type: none"> ・仕事上の問題 ・個人負担の費用 ・ケガや病気について 	
Pert ② 個別設問	専門家としての意識	D. 仕事・生活に 対する意識 問1~3	<ul style="list-style-type: none"> ・仕事について、働く目的 ・技術・技能向上のための要件 ・安心して活動するための要件 	
		E. フェイスシート F1~7	<ul style="list-style-type: none"> ・回答者の属性、居住地 ・事故や老後の備え ・自由記入 	

※設問項目は、2004年、2009年のものをほぼ踏襲している。